

2019 年度一般社団法人小さいのちのドア事業計画

2019 年度基本方針

当法人は、2018 年 1 月に小さいのちや妊娠や出産で思い悩み追い詰められた女性を守る施設の開設を目指し設立されました。2018 年 9 月 1 日には思いがけない妊娠やもう育てられないと追い詰められた女性のための相談窓口「小さいのちのドア」を開設し、24 時間 365 日休みなくいつでもアクセスできるように活動を行っています。

2018 年度は相談窓口の開設を行いました、更なる温かい支援の充実を図ることと共に、必要な方に情報が行き届くように、また継続的な安定した運営が図れるように広報を充実させていきたいと思っています。また相談にのる中で、念頭にあったマタニティホームの必要性を感じており、来年度マタニティホームを建設出来るように、準備を進めていきたいと考えております。今年度も更なる支援の充実を図ってまいります。

2019 年度事業計画

小さいのちのドアの相談事業の更なる支援充実に向けて以下のとおり実施していく。

1. 相談員・ボランティアの育成
2. 市や県に向けて、小さいのちのドアによる相談の必要性、支援を要望
3. 公益法人への移行
4. 必要な人に情報が届くよう情報発信、啓発・広報活動の充実を図る
5. マタニティホーム建設に向け準備していく。

1. 相談員・ボランティア等の育成

現在相談は 3 名で実施しているが、24 時間の相談に加え、同行支援等も増えている点や、遠方からの相談もあることから、各地域に実際に対応できる「ドア向こうスタッフ（仮）」を配置していきたい。相談の入り口としては現 3 名のまま、実働部隊として動けるスタッフの養成を今年度より実施し、体制の充実を図り、よりきめ細やかな支援が行えるように整えていきたい。また同時に生活支援や簡易な事務作業、広報活動を担ってもらえるボランティアの育成にも取り組んでいきたい。

2. 市や県に向けて、小さいのちのドアによる相談の必要性、支援を要望

現在、妊婦に対する支援は出産一時金や、妊婦健診の助成などは行われているが、支援の必要な妊婦に対しての法律や制度がなく、支援を受けることができないでいる妊婦が少なくない。行き場を失い、ネットカフェ難民になってしまう妊婦もいるのが現状である。

また 24 時間妊娠に関する相談を出来る窓口は全国どこを見てもほとんどなく、妊婦は制度の狭間にあり、十分な支援が受けにくい状況にある。

そんな中で小さいのちのドアは、24 時間窓口を開き、必要な支援につなぐ橋渡しを行っている。行政が直接は実施できない部分を担っており、しかしながら十分な支援のためには行政と連携して行う必要があり、協力し合い、連携し合って、妊娠に関する諸問題に取り組んでいく必要がある。市や県の働きとして全面委託していただく、もしくはバックアップとして助成や補助金等を出していただけるように、要望していく。

3. 公益法人への移行

継続した事業を続けるために安定した財源の確保が必要である。初年度は多くの単発の寄付によって支えられ、また会員数も徐々に増え、現在、正会員は 75 名 1 団体、賛助会員 67 名 1 団体、マンスリーサポーター 10 名にまで増えたが、安定した財源確保のために、さらなる会員の獲得と、企業からの継続した支援が必要不可欠である。そのため団体・企業からの支援を得やすくするためにも公益法人への移行を進めていきたい。公益法人に移行できることにより、社会的信用を得やすく、支援側も税制優遇を受けることが出来るメリットがあり、企業や団体等の継続した寄付につながりやすいため取得を目指す。

4. 必要な人に情報が届くよう情報発信、啓発・広報活動の充実を図る

1) 支援の必要な女性に向けて

今年に入ってからでも新生児遺棄のニュースが後を絶たない。相談窓口を知っていたら悲しい事件にならずにすんだケースもあるのではないかと思うと、もっと周知できるように工夫と情報発信の頻度を上げていきたい。SNS やメディアの活用をさらに充実させることで、情報に触れられる機会を増やしていく。またネットカフェ難民と呼ばれる人の中からも遺棄事件などが起こっていることから、ネットカフェや 24 時間開いているコンビニやファミリーレストラン、ファーストフード店等に協力依頼をし、ヘルプカード等の設置の拡大を図る。

2) 支援者や社会に向けて

10 月 5 日（土）に神戸市産業振興センターにて 1 周年記念事業を実施する。1 年の活動報告とともに、特別講演会、チャリティーコンサートなども実施し、支援を必要としている女性への励ましと、関心を寄せてくださっている方々に向けて情報発信と支援の拡大を図りたいと考えている。ゲストに夜回り先生こと水谷修先生、元 NHK うたのおねえさんの森祐理さんを迎えて実施する予定にしている。

また里親や特別養子縁組などに興味関心をもってもらえるように、また支援の輪が広がるようにパンフレットやチラシの作成や、勉強会なども実施していきたい。合わせて講演活動にも力を入れていく。

5. マタニティホームの建設準備

2018年9月から相談を受ける中で、出産のため中長期的に滞在する場所の確保が必要と感じた相談が何件もあり、実際に民間の賃貸物件を借りて住んでいただいた方や、マナ助産院の一室を借りて1~3週間ほど過ごされた方も何名かおられた。経済的な問題を抱える方を生活保護や助産制度等、行政の支援につなげる必要があるケースもあるが、その枠組みには該当しない方も少なくない。またいのちを守り、産む決断をするためには、様々な事情により家族や周囲から身を隠す必要があるケースもある。しかしながら、現在の制度下の中では、支援を必要としている妊婦に対する制度が整備されておらず、シェルターや母子支援施設など妊婦を受け入れる施設はほとんどない。こういった現状を踏まえ、相談事業だけでなく、受け皿となる生活支援を進めて行かなければ、守れるはずのいのちを守ることが出来ない。

マタニティホームのコンセプトとしては、家族関係、人間関係に課題を抱え、孤独の中で生きてきた方も多いため、単に安全に出産を迎えらえる場所というだけでなく、温かい家庭の中で暮らすという経験につながるような生活を指す。ともに食事をすること、また自立に向けて、家事等も身につけられるような支援を行っていきける場を作っていきたい。来年度建設を実施出来るように、具体的に準備を進めていきたい。

2019 年度事業計画

事業名	事業内容
会議の開催予定	
総会	1 回（6 月頃）
理事会	4 回
運営委員会	月 1 回
相談者支援事業	
小さいのちのドア	思いがけない妊娠やもう育てられないと追い詰められた女性のための相談を継続する。24 時間 365 日電話や来所、メール、LINE などあらゆる方法でいつでも相談することが出来る。
ドア向こうサポート	ドアに相談に来られた方の病院受診や行政窓口、関連団体への同行支援を行い、必要な支援につなげていく。妊娠から出産、産後に至るまで女性と小さいのちが前向きに歩める一歩を踏み出せるまでサポートを行う。
妊娠出産支援	妊婦健診や出産の支援、産前産後ケア事業などが必要な妊婦については、マナ助産院で引き受けられる場合は、マナ助産院につなぎ、費用面での支援が必要な場合は、小さいのちのドアから支援を行う。
来所支援	小さいのちのドアに来所するハードルを少しでも下げられるように、必要な方には来所時の交通費支援を行う。
市や県への要望	緊急下にある妊産婦の支援のためには 24 時間の相談事業が不可欠であること等、必要性と現状を伝え、市や県と連携しながらサポートを得て、事業実施出来るように助成や補助を要望していく。
緊急下にある妊婦への支援に関する研究	小さいのちのドアのような活動の必要性を社会に発信していくため、根拠ある情報提供、研究発表を行っていく。
里親・縁組相談支援	里親制度、特別養子縁組への理解と支援の輪が広がるように、啓発を行いつつ、興味のある方や希望者を中心に、勉強会を実施。必要時、特別養子縁組団体や里親支援団体につないでいく。
スタッフ研修会	小さいのちのドアのスタッフ希望者に向けて、養成研修を実施。小さいのちのドアの理念や活動方針に賛同し、研修を修了した者をドア向こうスタッフとして採用していく。全国各地方に数名ずつ配置出来るようにしていく。

ボランティア研修	生活支援の中で、ボランティアとして活動に参加希望者向けに研修を実施し、ボランティア登録を行う。
勉強会	小さいのちのドアの活動や緊急下の妊婦支援などに興味関心のある方を対象に、勉強会を定期的実施していく。
積極的周知・広報活動	支援の必要な女性が支援につながるできるように、SNS やメディアなど積極的に活用していく。 またヘルプカードの設置を 24 時間開いている場所やネットカフェ、ファミリーレストラン等設置できる場所を増やしていく。
支援の輪の拡大に向けての広報活動	小さいのちのドアの活動や日本の現状についてのパンフレットやチラシを作成し、分かりやすく紹介していく。
1周年記念事業	10月5日(土)に1年の活動報告と特別講演会やチャリティーコンサートを実施。ゲストに夜回り先生こと水谷修先生、元 HNK うたのお姉さん森祐理さんを迎える予定。